

一般国道 329 号 金武^{きん}バイパスの整備効果について (全線開通1年後の交通状況について)

金武^{きん}バイパス (平成31年3月30日全線開通)

開通1年後の交通状況・整備効果についてお知らせします。

■現道からバイパスへ交通量が転換

→国道329号現道の交通が金武^{きん}バイパスへ転換し、(仮)金武^{きん}(北)交差点付近で約53%減少(図1)。

■混雑の緩和

→主要渋滞箇所の(仮)キャンプハンセン入口の渋滞が最大1,400mから80mと約9割減少し、走行性が向上(図3)。

■バスの定時性向上

→路線バスの平均所要時間が40分⇒22分となり、大幅に定時性が向上(図4)。

■地域交流の活性化

→バイパスに近接する基地返還跡地では、スポーツコンベンション拠点(野球場等)が整備され、プロスポーツキャンプ地等として地域が活性化(図6)。

■地域産業の支援

→バイパス周辺の産業施設(漁港や工場)では、運搬路としてバイパスが利用され、物流の効率化に貢献(図9)。

【問い合わせ先】

内閣府 沖縄総合事務局 北部国道事務所 TEL0980-52-4350(代)

副所長 屋我^{やが}直樹^{なおき} (内:204)

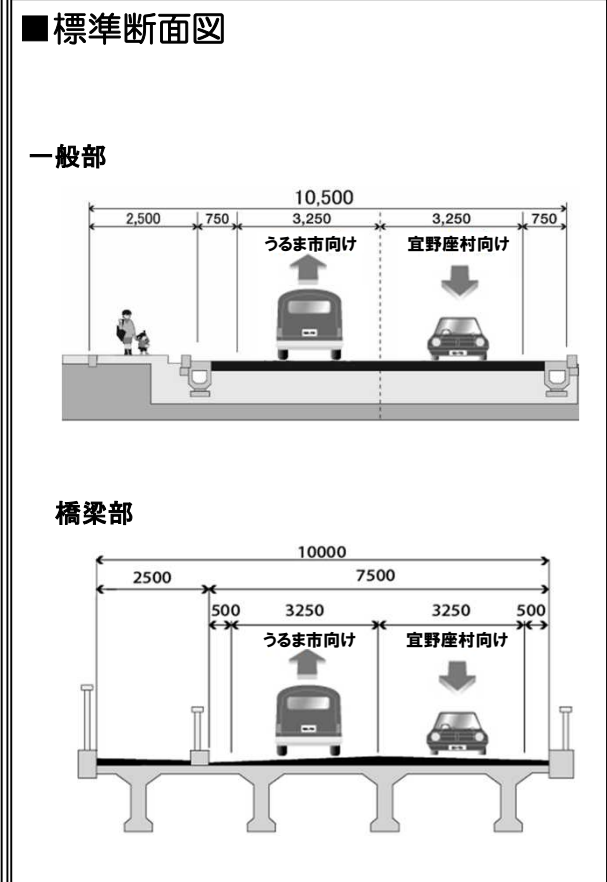
工務課長 森山^{もりやま}正三^{まさみ} (内:411)

調査課長 高良^{たから}茂宏^{しげひろ} (内:451)

ホームページ: <http://www.dc.ogb.go.jp/hokkoku/index.html>

一般国道329号 金武バイパス(金武中川～金武浜田) 事業概要

- ### ■事業の目的
- ①交通安全の確保
 - ②地域連携の強化
 - ③幹線道路としての機能向上



■事業の概要

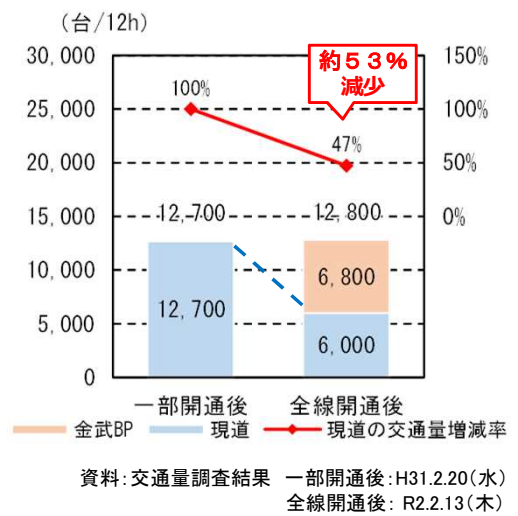
事業名	一般国道329号 金武バイパス
事業延長	5.6km
車線数	2車線

■事業の経緯

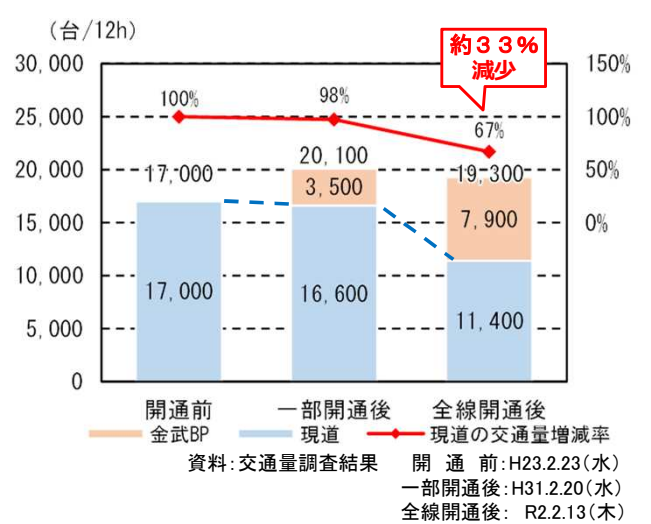
平成3年度	事業化
平成6年度	用地着手
平成7年度	工事着手
平成7年度	金武中川～金武源原 開通 (延長 0.8km)
平成22年度	金武島兼原～金武浜田原 開通 (延長 1.2km)
平成24年度	金武浜田原～金武浜田 開通 (延長 1.0km)
平成30年度	金武源原～金武島兼原 開通 (延長 2.6km)



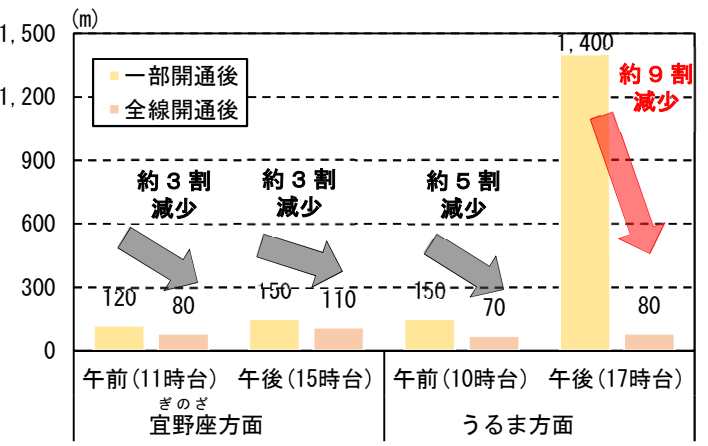
- (1) 国道329号現道の交通が金武バイパスへ転換し、(仮)金武(北)交差点付近で約53%、(仮)金武(南)交差点付近においても約33%減少(図1,図2)。
- (2) 主要渋滞箇所の(仮)キャンプハンセン入口の渋滞が最大1,400mから80mと約9割減少し、国道329号の走行性が向上した(図3)。
- (3) 路線バスの速達性、定時性が向上(石川少年自然の家入口から金武農協前:開通前平均40分、開通後平均約22分)(図4)。



(図1) 交通量の変化 ((仮)金武(北)交差点付近: A-A'断面)



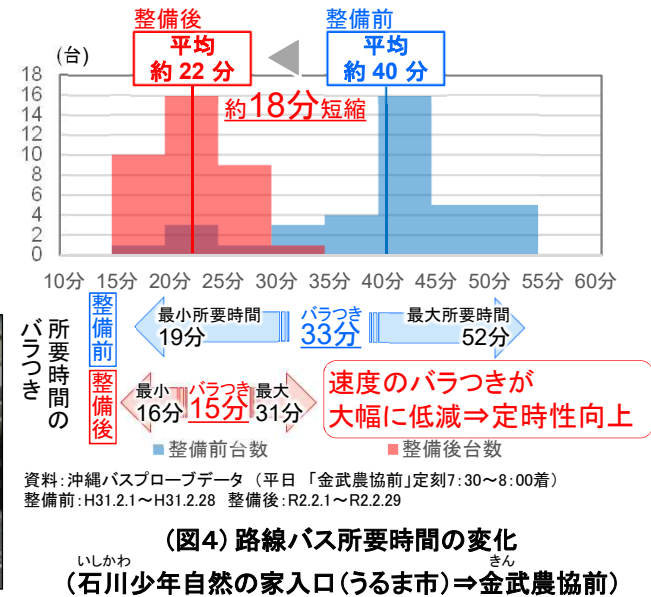
(図2) 交通量の変化 ((仮)金武(南)交差点付近: B-B'断面)



(図3) 滞留長の変化(主要渋滞箇所: (仮)キャンプハンセン入口)

金武バイパス開通後は、通過交通や火力発電所や中学校などの海岸部にある施設への交通等が金武バイパスを利用しており、市街地の現道329号については主に域内交通となり、混雑が緩和している実感があります。

資料: ヒアリング調査結果(金武町 商工観光課)

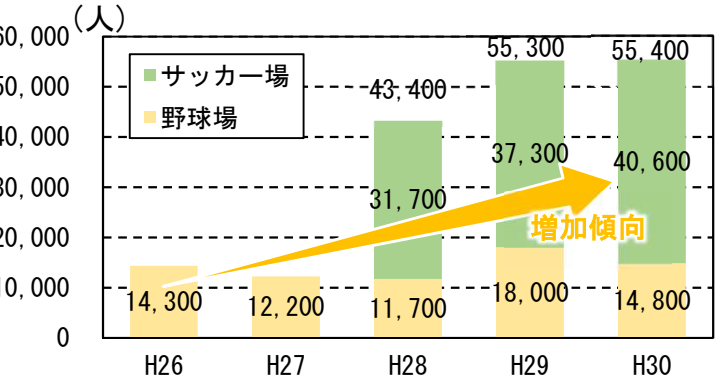


(図4) 路線バス所要時間の変化 (石川少年自然の家入口(うるま市)⇒金武農協前)

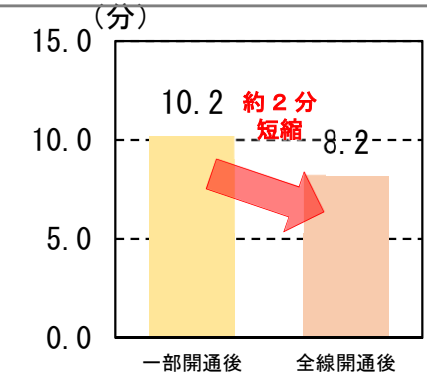
- (4) 平成23年7月の米軍基地ギンバル訓練場(約60ha)が返還後、野球場やサッカー場を整備し、プロスポーツキャンプなどの誘致、スポーツコンベンションによる地域活性化を推進(図5,図6)。
- (5) 金武バイパスの開通は、これらのスポーツコンベンション拠点(野球場、サッカー場)やネイチャーみらい館などのレクリエーション拠点などへのアクセス向上に寄与(図7)。



資料:ギンバル訓練場跡地利用計画(金武町HP※一部加工)
(図5) ギンバル訓練場跡地の利用計画



※選手等の施設利用者数の推移であり、観客等は含まれていない
資料:金武町体育施設利用者数の推移
(図6) 金武町体育施設の年間利用者数の推移



資料:民間プローブデータ 一部開通後:H30.4.1~H30.6.30 平日
全線開通後:H31.4.1~R1.6.30 平日

(図7) 所要時間の変化(金武IC~ギンバル訓練場跡地)

令和元年8月の全国高等総合体育大会では、多くの来場者が訪れましたが、現道とバイパスに交通を分散させることができたため、目立った混雑はありませんでした。
資料:ヒアリング調査結果
(金武教育委員会 社会教育課)



資料:金武町役場提供資料

(6)金武バイパス事業化(平成3年度)以降、周辺には地域産業施設(漁港や発電所等)が新たに立地・増設。ギンバル訓練場の返還(平成23年7月)に伴い、訓練場跡地では生活関連施設(医療施設、スポーツ施設等)の整備も進められている(図8、図9)。

(7) 浜田漁港や堆肥工場などの海岸沿いに立地する施設からの運搬ルートとして、金武バイパスが利用され、物流の効率化に貢献(図9)。



(図8) 金武バイパス周辺の土地利用(平成5年頃) 資料: 沖縄県地図情報システム

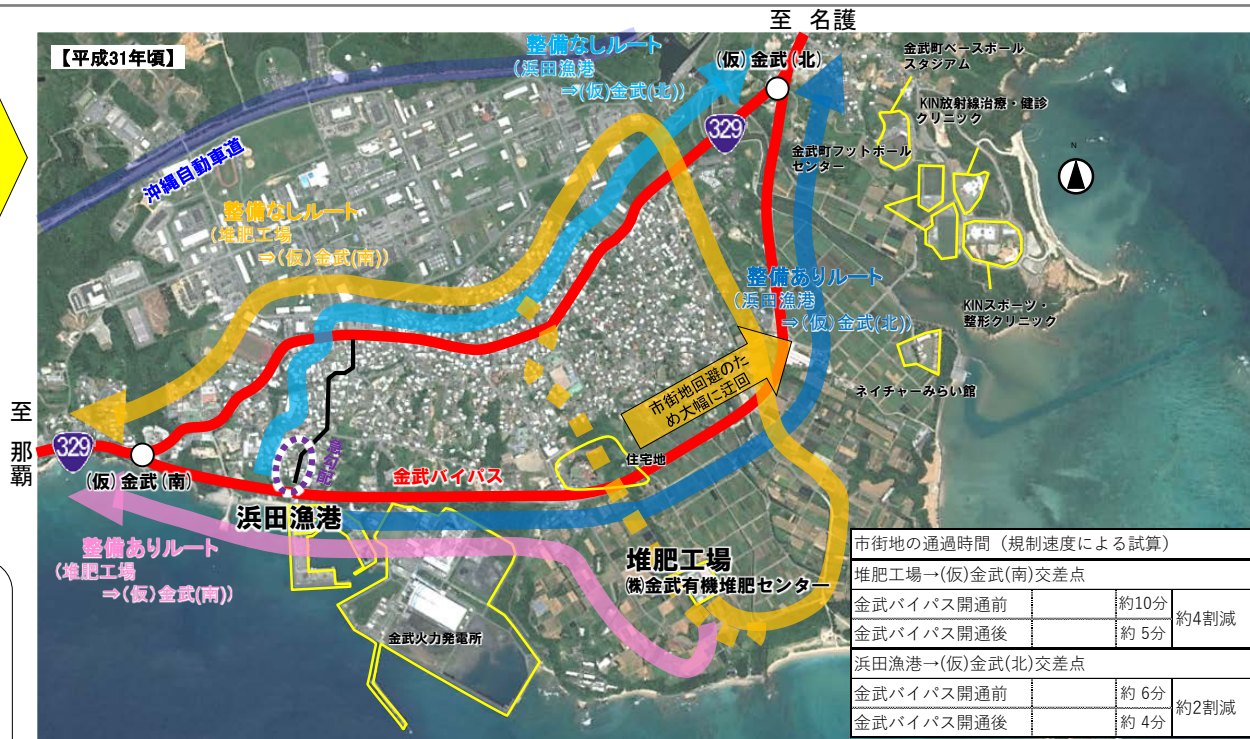
- ・バイパスが整備されたことで、急勾配の道路を通る必要がなくなり、荷崩れの心配が大幅に軽減されました。
- ・商品のほとんどを名護市へ出荷しているため、全線開通によって所要時間が短縮したことで、余裕をもって出荷できるようにまりました。



資料：ヒアリング調査結果（金武漁業協同組合）



資料：金武漁業協同組合提供資料



(図9) 金武バイパス周辺の土地利用(平成31年頃)と地域産業の商品搬送経路 資料:GEOSPACE 電子地図

- 地元住民からの要請で、ふん尿収集車やトラックは市街地を迂回する必要があったが、バイパスが整備されたことで大幅な迂回が解消した。
 - 繁忙期には取引先と工場とを1日に何度も行き来する必要がある、バイパスを利用することで時間が短縮されるため、取引先の営業時間内の商品搬送に役立っています。
- 



資料：ヒアリング調査結果（金武有機堆肥センター）



資料:金武有機堆肥センター提供資料